

トラック 1

ピピ：

ねーえー、ご主人様ぁ、まだおねむ？

だったらそのままでいいから、ボクにおちんぽ貸してくれりゅ？

ミミ：

あ！ピピずるい！

アタシだって我慢してるんだからピピも我慢しなさい

ミミ：

アンタも仕事で疲れてるんだったら、ちゃんと言わないと駄目よ？

いっつもピピにだけ甘いんだから

ピピ：

ねーえー、いいでしょ？

ボクのおまんこ、ご主人様にして欲しくて泣いちゃってるもん

ピピ：

ほんと！？やったー♪ だからご主人様だーい好き♡ちゅ♡

ミミ：

あー！もうすぐそうやって甘やかす！

だったらアタシだってエッチしてもらいたいし

いい、よね？

トラック 2

ピピ：

んふふ♡

ご主人様ぁ、このまま正常位で、ボクのおまんこに、おちんぽちょうらい♪

ミミ：

なんでまたピピからなのよ

ピピ：

ご主人様はボクのおまんこが大好きなんだもんねー？ふふ

ほら、わんわんスタイルで待ってるから、早く早くう

ピピ：

あん♡おちんぽの先っぽでグリグリされてりゅ

そんな風に焦らすの駄目だよお

ボク、我慢できなくてご主人様に歯型つけちゃうよ？

ピピ：

あ、きたぁ♡

ご主人様おちんぽ大しゅき♡

ピピ：

あふっ♡あっ、あっ、んんんっ♡

ピピ：

ご主人様チンポ大しゅき♡

ピピ：

ねえ、もっともっときゅってして？

大しゅきホールドで、奥まで突いて？

ピピ：

ぎゅうううっ

ピピ：

ひゃあん♡あんっあんっあんっ♡

ピピ：

ご主人様を買われて初めて家にやってきた時に、ボク言ったよね？

一番のおまんこペットになるから、ご主人様が入りたい時にいつでもエッチしてください、って

ピピ：

ああっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んあ

ピピ：

それなのにご主人様って優しいから

いつも決まった時にしかエッチしてくれないんだからあ

ピピ：

ンア♡ン"ウっっ！

ピピ：

ほんとはずっと、ご主人様チンポ独り占めしたいの

ピピ：

ミミのこと可愛がってるのも分かるけどお

ご主人様にはもっとボクだけ見て欲しいな

ピピ：

んひあっ、はっ、あっ、あっ、あっ♡んあっ♡

ピピ：

いきなり激しくしちゃやだぁ♡

ボクのおまんこ雑魚雑魚だから、すぐお潮吹いちゃうの

ピピ：

んひっ♡ひっ♡あゝっ、あゝっ、あゝあゝっ！

ピピ：

ほらぁ、またシートびしょびしょになっちゃう

ごめんね、ご主人様

あ、またっ

ピピ：

やあ♡あ”♡きもちいい♡これ、きもちいっ

ピピ：

好き♡好き♡大好き♡ご主人様あ♡

ピピ：

んゝ ひっ♡おゝ ♪♡おゝ ♪♡おゝ ♪♡

ピピ：

やだあ♡ボクいっちゃう、またいっちゃうからあ

ピピ：

あゝ ♪、あゝ ♪、あゝ あゝ あっ♡

んあ！

ピピ：

あ、あああ、子宮まできてりゅうう♡

ご主人様の熱いザーメン、いっぱい注がれてりゅうう♡

ピピ：

ひい、ひい、ふ、ふう.....んわん。ご主人様あ、キシュは？

ピピ：

んちゅ、ちゅ♡ んふう♪満足♡

ミミ：

ピピはいつまで幸せづらしてんのよ

次はアタシの番でしょ？

そこ退いて

ミミ：

ほんと、いつもピピって甘えるふりして自分だけエッチしてもらおうとするんだから

ミミ：

何その顔

連戦は勘弁してくれ？

ミミ：

そんなこと言って

このIカップのおっぱい見て、またチンポおっきくしてるくせに

ミミ：

そんな嘘つきチンポは上からまたがって、きつーいお仕置きしてやるんだから！

ミミ：

んしょっと

このまま入れてっと.....んん、あん！

ミミ：

アタシのおまんこの方が好きなの、知ってるんだからね？

ミミ：

んあっ♡あっ、あっ、あッ♡

ミミ：

ホントはこうやって女の子に上からされる方が好きなんでしょ？

ミミ：

くひうっ♡う、はうっ、あ、んにゃあっ

ミミ：

アタシのおまんこの中ですっごい固くて大きくなってる♡

ミミ：

んひっ♡はうっ♡くっ、ふっ♡うにゃあ♡

ミミ：

うにゃん！

ちょっと！しっぽ触らないの！

弱点なの知ってるでしょ？

ミミ：

んあっ♡あっ、あっ、あッ♡はうっ

これでもね、アタシはアンタにすっごい感謝してるの

ミミ：

んゝ ひっ♡おゝ っ♡おゝ おっ♡

ミミ：

ほら、アタシ、捨て猫だったでしょ？

ミミ：

くうっ♡あくっ、っ、んんっ

ミミ：

ボロボロの体で、お腹も空いて、もう野垂れ死にそうになってたところを、アンタが助けてくれた

ミミ：

んんっ、ふっ、ふう、んあ

ミミ：

だから感謝してるし恩返しもいっぱいしたい

ミミ：

でもねそういうことだけじゃなくて

ミミ：

はっ、あっ、あっ、あっ♡

ミミ：

アタシの方がピピよりアンタのこと、好きだから

ミミ：

ずっとアンタと一緒に暮らしたい

ミミ：

ずっとアンタとエッチしてたい

ミミ：

それくらい好きってことなの！

ミミ：

くうっ♡あくっ、っ、んにやっ、にゃんっ、にゃんっ

ミミ：

アタシはアンタのおちんぼじゃないと、こんなに感じないんだからあ！

ミミ：

んゝ はっ♡あゝ っ、あゝ っ、あゝ あゝ っ♡んにやああ♡

ミミ：

ああん！そんな腰突き上げて、アンタはそうやって、いつもアタシを気持ちよくさせようとがんばるんだからあ！

ミミ：

あっ♡あっ♡あつつ♡んにや♡にや♡にやにやにやあ！

ミミ：

もう駄目ん！

こんなの、絶対アンタのこと好きになるに決まってるじゃない！

ミミ：

気持ちよくて、幸せで、耳がピーンてなって、しびれちゃうのお！

ミミ：

あっ♡あっ♡あんッッ♡んはあ♡うにやああ！

ミミ：

いいよ、そのまま、きて

中に出して！

ミミ：

まゝッてッ♡そこ、無理♡駄目駄目駄目え♡

ミミ：

アンタの子種いっぱい欲しがって、子宮降りてきちゃううう！

ミミ：

あああゝ あゝ あっ！あゝ ひっ♡あゝ っ、あゝ あゝ あゝ っ！

ミミ：

んにやあああああ！

ミミ：

うゝ にやあつ！

ミミ：

熱いの、いっぱいきてる

ミミ：

んにやあ.....これ、らめえ

トラック 3

ピピ：

ねーえー、ボクをお嫁さんにしてくれるんだよね？

ほらあ、おまんこ広げて、降参ポーズしてるよ？

ほらほらあ、おちんぼ入れて、結婚しよ？

ミミ：

アタシの方が早く降参ポーズしてるんだから

こっちに先に入れるのが筋ってもんでしょ？

ミミ：

てか、アタシと結婚するんだからね、いい？

ピピ：

ねえ！どっちとするの！

早く決めてよ！

ミミ：

ねえ！どっちとするの！

早く決めてよ！